

庭師の背中

吉澤 舜葉 埼玉県川口市 二十五歳

私の実家は造園業を営んでおります。小さい頃は造園業という言葉が難しくて、「私のお父さんは植木屋さんです」と言っていました。父が実家の手入れをしている時には切った葉っぱや枝を集めたり、草むしりを手伝っていました。年末には、父が正月飾りを作る横で鉢の受け皿に砂利を引いて、小さい竹や葉っぱや木の実を飾って真似事をしました。色んな植物を教えて貰いましたが、小学生の頃の私の一番のお気に入りはおジギソウでした。自分の家が造園業を営んでいるということは嫌ではありませんでしたが、送り迎えして貰える時は基本軽トラックで、それを友達に見られるのが恥ずかしくて嫌でした。

手入れをしている父の仕事姿は見たことがありませんでしたが、一から庭を造る姿は見たことがありませんでした。私が二十歳の頃に福島の祖父の家を建て直すことになり、父が庭を造り直す事になりました。思い出にと親戚の皆で庭造りを手伝いました。枯山水や祖父の好きな水琴窟、祖母の好きな草花。素人の私が手伝えることは多くはありませんでしたが、親戚の皆と造った事はとても良い思い出になりました。

その時に初めて、私は庭を造る父の姿を見ました。その姿を見た私は、職人としての父の姿を初めてカッコいいと思いました。親戚の皆で祖父の家の庭造りが出来て、庭師としての父の姿が見れて良かったと思います。